
4 区民会議からの提言・提案

第2期緑区区民会議では、2年間の活動を通して、緑区内のまちづくりについて、様々な視点から学び、話し合ってきました。

その中から、今後の緑区のまちづくりにおいて進めると良いと思われたことについて「区民会議からの提言・提案」として、以下の7つの要素にまとめました。

1. 「ふれあい拠点・見沼茶屋」について
2. 「キレイきれい大作戦の継続実施」について
3. 「子育てサロンの展開」について
4. 「区民に優しい公共交通網」について
5. 「防犯・防災の取組の充実」について
6. 「区民への情報伝達や行政と区民の情報交流」について
7. 「見沼田んぼにおける交流の活性化」について

これらのことを実現し、緑区のまちづくりを進めていくのは、行政だけの役割ではなく、緑区に暮らし・働く人々が力を合わせていくことが必要です。

したがって、ここでは「行政への政策提言」のみならず、第3期以後の区民会議や、区民全員への提案として整理することとしました。

また、私たち区民会議委員経験者は、ここで得た経験と人と人との出会いを、今後の緑区のまちづくりに生かし、区の協力のもと、協働の推進を支援するネットワークとして機能していきたいと考えています。

4 - 1 「ふれあい拠点・見沼茶屋」について

【目的】

誰もが、いつでも、どこでも、立ち寄ることができる
ふれあい拠点（（仮称）見沼茶屋）が、区内各地にできること

【提言】

- ふれあい拠点づくりの活動を支援する仕組みをつくろう
- ふれあい拠点づくりの活動を、区内に広げよう

< 行政に期待すること >

- ・ ふれあい拠点づくりを支援する仕組みを定める。
- ・ ふれあい拠点づくりを支援する仕組みを適用するための考え方を、区民会議との協働のもと検討する。
- ・ 「ふれあい拠点」に関する区民の理解を広げるため、区民会議との協働のもとPR・啓発活動を展開する。

< 区民会議に期待すること >

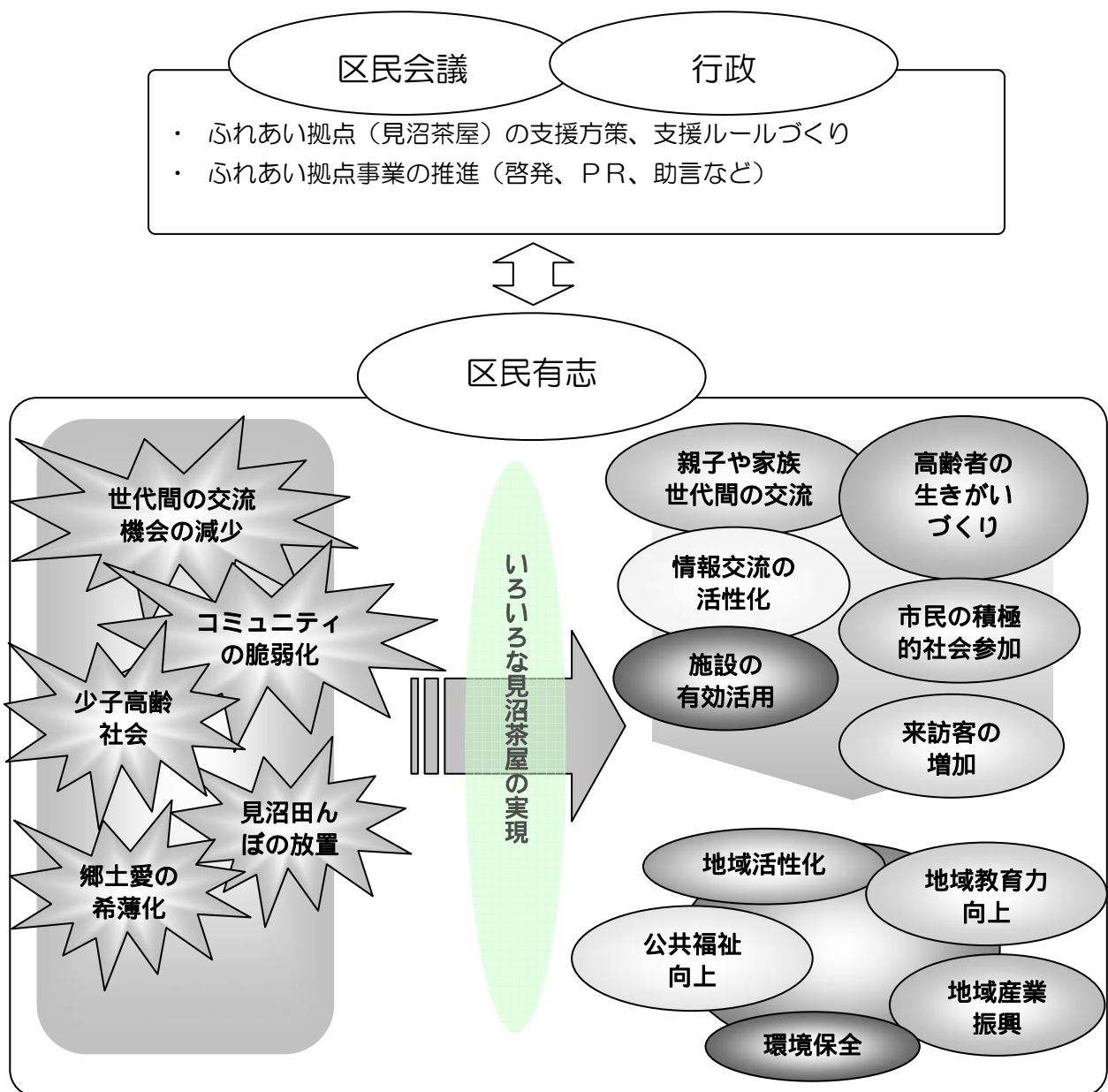
- ・ 区と協働により、ふれあい拠点づくりを支援するための仕組みを検討する。
- ・ 区民会議に参加する各団体等の持つ情報や資源を、ふれあい拠点づくりに有効に活用し、ふれあい拠点づくりの活動を支援する。

< 区民に期待すること >

- ・ これからの時代における「ふれあい拠点」の必要性・重要性に理解を深め、関心を持った方は、自分たちが無理なくできる範囲で、取組に参加する。

< 区内の事業者等に期待すること >

- ・ 「ふれあい拠点」における区民の交流の活性化が、緑区の活力の向上につながることを理解し、これらの取組への支援を少しずつでも進める。



【提言の背景 ～社会情勢～】

- 少子高齢化、核家族化が進む中、緑区においても多世代の交流機会が減少してきました。
- ライフスタイル・価値観の多様化により、いわゆる近所付き合いの減少や、独居老人問題なども生じてきています。
- このような交流機会の消失は、コミュニティの脆弱化を招くとともに、安全管理や情操教育の面から子どもたちの健全な育成環境をも脅かすものとなっています。
- 緑区には、見沼たんぼという全国に誇れる貴重な空間があり、自然とふれあう環境資源として、また、首都圏近郊の観光資源としての活用が期待されています。
- しかし、これまで十分にその活用が図られてきたわけではありません。今後、見沼たんぼの環境を保全しつつ観光資源としての活用を図るためには、来訪者に正しい情報を提供したり、一定水準のサービス機能を提供したりするセンターが必要になると考えられます。
- このセンターが交流拠点となり、地域住民も含めて見沼たんぼ来訪者の交流を促進し、健全な見沼たんぼの保全と活用に資することが期待されます。
- このような交流拠点として、公民館なども期待されるようですが、区内のこれらの施設は既に多くの団体により活発に利用されており、不特定多数を対象として常に施設を開けておくことは困難な状況にあります。
- また、公民館は社会教育施設として整備されており、その運用等には種々の規制があることから、多様なニーズに対応したり、市民の豊かなアイデアを実現したりするには、必ずしも適しているとは限らないものと考えられます。



佐倉茶屋は、商店街の空き店舗を活用



みんなで凧づくりをしたり・・・

【現状と検討経緯】

- 区内の実践事例
 - 区内には、個人の庭に離れを建造し、ここを周辺の高齢者の方々の自由な居場所として開放されている方がいらっしゃいました。1年中休むことなく開放され、食事の提供などもされているということです。
 - 毎日、数名～十数名の高齢者の方が集まり、会話や趣味に興じて過ごされているそうです。

- 子育てサロン
 - ✓ 平成16年度から区と区民の有志による実行委員会で実施してきた「子育てサロン」には、多くの親子が集まり、このような場のニーズが高いことが伺えます。

- 佐倉茶屋の見学
 - ✓ このように、多世代の交流拠点、子どもの居場所、高齢者の居場所など区民同士がふれあう場へのニーズは高まっています。
 - ✓ そこで区民会議では、地域住民による交流拠点づくりの先進事例として千葉県佐倉市にある「佐倉茶屋」の視察を行いました。
 - ✓ 佐倉茶屋では、空き店舗対策を兼ねて住民の交流拠点であるとともに、来訪者（歴史博物館が近隣にある）のお休み処、観光拠点としてももらえる空間づくりを、地域住民が主体となって行っている様子を、詳しく伺ってきました。

- 区民会議委員の夢
 - ✓ 区内の実施例や、佐倉茶屋の視察などを通して、区民会議委員の意識の高揚が進み、様々な目的をもったふれあい拠点として「見沼茶屋」の整備に向け、熱い意見交換が行われるようになってきました。
 - ✓ ふれあい拠点として見沼茶屋では、次のようなことができる場所があれば良いという意見が出されました。
 - ・ 高齢者のお茶・お休みどころ
 - ・ 子どもが遊ぶところ
 - ・ 高齢者と小さい子どもの両者が交流して遊べる場所
 - ・ 農家レストラン
 - ・ そこに若い人が来て、一緒に食べたりできる場所
 - ・ 地元農産物の直販所
 - ・ 農作業センター
 - ・ 見沼ウォーキングのビジターセンター
 - ・ グランドでスポーツをする際の更衣室、シャワー
 - ・ 趣味の作品の展示、販売
 - ・ 東浦和駅から見沼田んぼの周辺に、来訪客が滞留できる場所
 - ・ 常にでなくても良いので、1週間に1度ずつでも集える場所
 - ・ 1週間に1日は高齢者、1日は子どもたちのように代わる代わる使える場所

【課題】

- 緑区が、より良い街となっていくためには、交流の場、コミュニケーションの場を増やしていく必要があります。
- 実現には様々な課題があげられました。
 - ✓ 資金の確保
 - ✓ 運営組織、人材の確保
 - ✓ 場所、施設の確保
 - ✓ 運営形態の確立 など

【今後に向けた提案】

- ➔ 区民会議は、行政と協力してふれあい拠点「見沼茶屋」づくりを支援する仕組みをつくる
 - ✓ 広がりを持たせたい事業であり、現時点で有志の活動にゆだねるだけでは、実現に向けた課題が多いと思われます。
 - ✓ 公共施設を活用することもあると思われるので、一部の有志のみではなく、広く声を掛けることも必要になります。
 - ✓ 一方で、民家等の利用も考えたりするのであれば、任意活動の方が活動しやすく、運営管理も含めてやる気のある有志が進める方が適していると考えられます。
 - ✓ しかし、事業の性格から、行政との協働事業であるべきであると思われます。
 - ✓ そこで、「ふれあい拠点」のあり方や、公共施設等を活用するための枠組みなどを検討する区民会議と、実際に設立・運営まで担っていく気持ちのある有志による設立準備会議の両輪を進めていくことを提案します。
 - ✓ 有志による設立準備会議は、自由な発想に基づくものです。結果として、公的会議に認められるかどうか、自由意志に基づくものとしします。
 - ✓ したがって、実現の方法も有志のアイデアにより様々な形態となることが考えられますが、何らかの公的な支援を必要とする場合には、区民会議等に相談できるものとしします。
 - ✓ 公的会議では、区民によるふれあい拠点の設立を支援する方策などを検討する一方で、支援する対象とするための要件なども検討します。
 - ✓ 区民による公共施設の管理運営の推進などについても検討を進めます。
- ➔ 区民の活動を喚起するように啓発、PR、助言などを区民会議が行っていく
 - ✓ 区民会議では、区民の意識啓発などを目的とした事例見学会や、情報交換会なども実施していくことが考えられます。
 - ✓ 「見沼茶屋」をふれあい拠点のシンボルとして、ブランド戦略を展開することも考えられます。

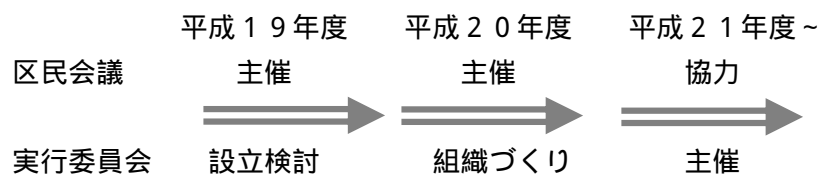
4 - 2 「キレイきれい大作戦の継続実施」について

【目的】

キレイきれい大作戦を区民の力で継続して開催していくこと

【提言】

- 「キレイきれい大作戦」は、見沼田んぼを愛する区民の象徴的な活動として意義深いものであり、継続実施するべきである
- これを区民の力で開催していくために、広い年代の参加する実行委員会を設立していくことが望まれる



< 行政に期待すること >

- ・ 実行委員会設立までの間、区民会議において継続実施できるよう、支援する。
- ・ 区民会議と協議を行い、実行委員会設立後の区（行政）の役割を定める。
- ・ 実行委員会設立後は、区としての役割に取り組み、本活動のいっそうの発展に努める。

< 区民会議に期待すること >

- ・ 実行委員会設立までの間、区民会議メンバーが実行委員となり、本活動を継続実施する。
- ・ 区（行政）との協働のもと、区民主体の取組として本活動が継続できるよう、関連する組織等への声掛けや調整を行い、実行委員会を設立する。
- ・ 実行委員会設立後は、活動に参加する。

< 区民に期待すること >

- ・ 自主的に活動に参加してほしい。また、友人・知人に参加を呼び掛ける。
- ・ 実行委員会に参加し、知恵と汗を出す。

< 区内の事業者等に期待すること >

- ・ PRの協力、従業員の参加、物資（車や軍手など）の提供など、可能な範囲で活動への参加を進める。

【現状】

- 見沼たんぼキレイきれい大作戦は、第2期緑区区民会議における意見交換において、区民が環境保全・緑の保全に意識を高く持つためには、何かきっかけづくりが必要であるとのことから、提案されたものです。
- その後、自然環境部会を中心に検討を進め、第1回キレイきれい大作戦は、平成18年3月に開催されました。
- 平成19年3月に第2回が、清掃エリアを北部に移して開催される予定でしたが、残念ながら荒天のために中止となりました。（それぞれの実績については3章参照）
- 「緑区のシンボルである見沼たんぼ」を舞台に、区民の意識が集中する何かを成し遂げていくことで、見沼たんぼを大切にしている心や、自然環境保全の意識を高めていく効果が期待できる、意義ある事業として位置付けられます。

【課題】

- これまで第2期区民会議の自然環境部会が中心に実施してきましたが、第2期区民会議委員の任期が満了することにより、今後は、誰かがこの活動を継続していく必要があります。
- 将来に渡って、区民会議がこれを運営していくようにするのは、区民会議の活動を制約することとなり、望ましくありません。

【今後に向けた提案】

- ➔ 第3期において、実行委員会を設立してほしい
 - ✓ 区民会議は、全面的に協力することが望まれます。
 - ✓ 実行委員会には、幅広い年代が参加することが望まれます。
 - ✓ 例えば、実行委員会の組織構成をある程度決めておき、中学生や高校生などを巻き込んで、後輩に引き継いでいってもらうことなどが考えられます。
 - ✓ 区（行政）の役割は、あらかじめ決めておき、将来において極度に行政依存が強まったり、行政の協力が得られなくなったりすることを避けることが必要です。
 - ✓ 事業者から協賛金を集めることも考えられます。
- ➔ 来期の区民会議でも、これを継続開催してほしい
 - ✓ 区民主体の実行委員会をどのように立ち上げ、どこが主管していくかが決まるまでは、区民会議で年1回程度主催していくものとしておくのが望まれます。

4 - 3 「子育てサロンの展開」について

【目的】

子育てサロン等の取組を広げよう

【提言】

- ➔ 子育てサロンの内容（目的・内容・仕組みなど）をまとめて、自治会等に紹介し、伝えていくと良い
- ➔ 子育てサロン参加者が、将来、ボランティアとして参加しやすくなるような仕組みがあると良い

<行政に期待すること>

- ・ 子育てサロンの活動について啓発資料を作成し、自治会等に配布する。
- ・ 実行委員会との協働により、人材や場所に関する情報バンクのような仕組みを構築する。

<区民会議に期待すること>

- ・ 関連する組織等への声掛けや調整を行い、各地の子育てサロンの活動を支援する。

<区民に期待すること>

- ・ ボランティアとして参加する。
- ・ 場所の確保に協力する。



【現状】

- 尾間木地区のボランティア活動から始まった「子育てサロン」は、緑区子育てサロン実行委員会に発展し、平成18年度には、区役所を利用して毎月第3火曜日に開催されるようになりました。
- 平成19年度からは、区内の各地域の公民館を会場として、子育てサロンの開催場所を増やしていくことが計画されています。
- 区民からのニーズは高く、開催場所や開催回数を増やしてほしいという声があります。

【課題】

- 子育てサロンを増やしていくためには、場所とボランティアの確保が重要な課題です。
- 各地区の公民館は、いろいろな活動で使われており、空いている時間があまりありません。
- 自治会館は、使用料が有料の場合が多く、会場費の確保が課題となっています。

【今後に向けた提案】

- ➔ 子育てサロンを各地区に広げよう
 - ✓ 緑区の中で子育てサロンが行われていない空白地帯に子育てサロンを広げていく必要があります。
 - ✓ 各地区でやる気のある人が出てこないとは広がりにくいです。
- ➔ そのためには、まず知ってもらおう、理解してもらおう
 - ✓ 「子育てサロン」の「意義・活動内容・仕組み」などの情報を発信し、多くの人の理解を得ることが必要です。
 - ✓ 「公民館だより」は世帯の7割程度の配布率であり、自治会のない地区もあるので、公民館だよりでのボランティアの募集だけでは限界があります。いろいろな形で情報発信をしていく必要があります。
- ➔ ボランティア確保のための仕組みをつくろう
 - ✓ 子育てサロン参加経験者が、子育てに手の掛からなくなった時にボランティアとして参加してくれるような循環システムを構築していくと良いと思われます。
 - ✓ 区内の産婦人科や小児科などと連携してPRしたり、サークルづくりを奨励したりしていくことなども考えられます。

4 - 4 「区民に優しい公共交通網」について

【目的】

公共交通網を、区民に優しいものにしていこう

【提言】

- ➔ 緑区民にとってバスは重要な交通手段であり、バス交通不便地区の解消や、バスをもっと使いやすくするための方策について、区民・関係機関・行政が協力して協議していくことが必要である
- ➔ 自転車を利用している区民も多く、駅周辺の違法駐輪対策も含め、自転車の環境を整えていくことも必要である

<行政に期待すること>

- ・ 区民からの意見を収集する機会を持つ。
- ・ 関係機関、事業者等に呼び掛けを行い、区民の利便性を向上するための方策の検討を区民会議等の協働により進める。

<区民会議に期待すること>

- ・ 区民意見の収集等に協力する。

<区民に期待すること>

- ・ 公共交通や自転車利用のマナーを守る。

<区内の事業者等に期待すること>

- ・ 従業員の公共交通機関利用を促進する。



簡易な駐輪ラックで整理



武蔵野市のムーバスは、区民に大人気

【現状】

- 緑区区民にとってバスは重要な交通機関であるが、バス交通不便地区もあり、必ずしもバスが利用しやすい環境になっているとは言えません。
- 市内のバス網のあり方については、数年前に市で市全域の検討をしており、現状で新たな路線の新設などに取り組むのは難しいようです。
- また、東浦和駅の周辺や駅から離れたバス停の周辺では、不法駐輪が目立っています。自転車も区民の重要な交通手段となっていることが考えられます。

【課題】

- バス交通不便地区への対策
- バスの使い勝手の改善
- 自転車の利用環境の向上

【今後にむけた提案】

- ➔ 既存バス路線の使い勝手を向上させよう
 - ✓ 既存バス路線の使い勝手を向上させるため、本数や、バス停位置などについて、区民（利用者）、関係機関、行政が協力して協議する場があると良いと思われれます。
- ➔ 路線バス以外の交通手段について検討する
 - ✓ バス交通不便地域の解消や、今後、さらに重要となってくるであろう高齢者向けの交通の便の確保に向けて、区民、関係機関、行政が協力して協議を行えるようになると良いと思います。
 - ✓ 協議においては、区内の事業所や学校が所有するバスの利用など、国内外の先進事例などを勉強しながら、より良い方法について検討していくことが必要です。
- ➔ 自転車に優しいまちをつくる
 - ✓ 駅から遠いバス停周辺に駐輪スペースを確保するなど、サイクル&バスライドのしやすい環境をつくることが考えられます。
 - ✓ 駅周辺では、不法駐輪によって道がふさがれたり、景観が悪化しないように駐輪場のシステムの再検討や、不法駐輪対策のあり方などを、行政、関係機関、区民が協力して検討を進めます。

4 - 5 「防犯・防災の取組の充実」について

【目的】

防犯・防災の取組について、地域によるばらつきをなくそう

【提言】

- ➔ 防犯・防災の取組を、区内の全地域で充実するようにしていくことが必要である
- ➔ そのためには、取組の遅れている地区に、先進的な取組を紹介するなど啓発を行っていくことが有効である。
- ➔ 緑区自主防災組織連絡会や緑区防犯連絡協議会と区民会議が連携して、これらの事業を進めることが必要である。

<行政に期待すること>

- ・ 防犯、防災に関する地域の優れた取組の紹介など、啓発資料を作成し、自治会等に配布する。
- ・ 実行委員会との協働により、シンポジウムなど啓発事業を進める。

<区民会議に期待すること>

- ・ 区民まつりなど様々な機会を通して、区民の意見・区内の情報の収集に努める。

<区民に期待すること>

- ・ 防犯、防災の自主活動に参加する。

【現状】

- 防犯
 - ✓ 緑区防犯推進実行委員会が設立されています。
 - ✓ 毎年、講演会などを行っています。
 - ✓ 通学路の防犯パトロールなども行っています。
- 防災
 - ✓ 緑区自主防災組織連絡会が設立されています。
 - ✓ 平成17年度、平成18年度と防災講演会などを開催しています。

【課題】

- 防犯、防災の取組は地域によってばらつきがあります。
- 防災用の備蓄などの情報について、区民に良く知られていない地域もあります。

【今後に向けた提案】

< 防災について >

➔ 自主防災組織を自治会ごとにつくっていくように推奨しよう

- ✓ 自主防災組織については、自治会単位が望まれますが、自治会の規模や性格の違いがあるので、実情に応じてより適切な組織づくりを進めていくことが必要です（世帯規模では100～200世帯程度が一番まとめやすい）。
- ✓ 災害発生時における実効性の面からは、昼と夜を想定した組織体制づくりを検討していくことが必要です。昼間の防災組織は、それぞれの地区の事業所やコンビニなどと連携して考え、夜間は居住者が主体となった組織を考えていくことも必要です。
- ✓ また、組織体制づくりだけでなく、いざという時のために防災訓練を行っていくことも必要です。
- ✓ 区内の先進的取組などを、紹介していくと良いと思います。

< 防犯について >

➔ 各地の防犯体制を充実していこう

- ✓ 緑区内の防犯の拠点として浦和美園駅前に交番の設置を要望します。（東浦和駅前には平成19年度中に設置される予定）
- ✓ 子どもたちの安全を守るためにPTAだけでなく自治会や地域の事業所などが参加した防犯体制づくりが必要です。
- ✓ 今後、定年退職する団塊世代などが参加した、地域の子どもたちを見守る仕組みについても考えていきたいと思っています。

➔ 協議会と区民会議が連携して啓発を進めよう

- ✓ 取組が進んでいない地域には、協議会と区民会議が連携して啓発事業を展開していくことが必要です。

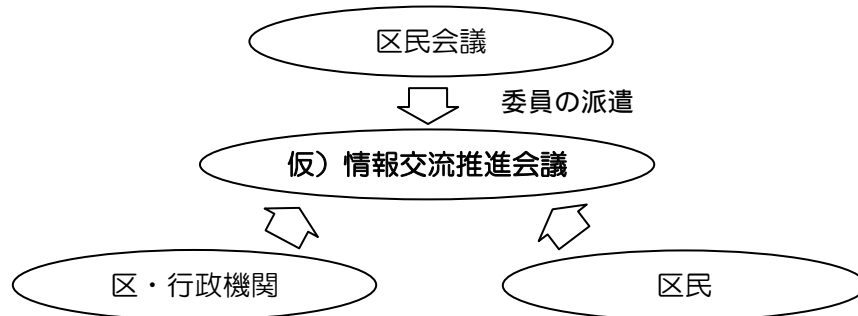
4 - 6 「区民への情報伝達や行政と区民の情報交流」について

【目的】

施策、取組を区民に周知・徹底していく

【提言】

- 行政情報の伝達などに関する検討組織を設け、区民と行政、関係機関で協力し、効果的な情報交流・情報伝達の仕組みを構築する



< 行政に期待すること >

- ・ 区民参加の検討組織を設け、より良い情報交流の仕組みの構築に努める。

< 区民会議に期待すること >

- ・ 情報交流の仕組みの検討に参加し、多様な立場の反映を図る。
- ・ 区民会議の機能を生かし、今後も、区民への情報伝達に努める。

< 区民に期待すること >

- ・ 市報・区報、自治会からのお知らせなどに目を通す。
- ・ 各種実行委員会などが実施するシンポジウムなどに参加する。
- ・ ホームページやメールなどを使えるようにする。

【現状】

- 行政は、いろいろな計画や施策を検討、実施しているが、区民がこれを知らないことが多いようです。
- 自治会組織などを通して、情報が流されることが多いが、自治会活動への関心が低下していたり、実際に自治会に未加入の世帯も少なくないことから、情報が十分に行き渡りません。
- 区民会議の認知度も、少しずつ高まってきてはいるが、まだまだ何をしている組織であるのかの理解が進んでいません。
- 市報（区報）に掲載しても、あまり読まれていません。

【課題】

- 区民の生活様式やニーズが多様化している中、自治会などの既存組織や、市報などだけでは、情報伝達が十分に行えません。
- また、区民からの意見の収集においても同様です。
- これまでの方法に加えて、新しい情報伝達や、情報交流の仕組みが求められています。

【今後に向けた提案】

- ➔ 区民と行政で協力して検討し、新たな情報伝達や情報交流の仕組みをつくっていくことが望まれる
 - ✓ 第3期の区民会議が主体となって、検討組織づくりを進め、早期に検討に着手されることを望みます。
 - ✓ いろいろな立場の区民のニーズを反映するために、検討のメンバーにも、いろいろな立場の区民を加えると良いと思います。
 - ✓ 行政情報の伝達だけでなく、区民からの意見の吸い上げ方や、啓発の方法などについても検討することが望めます。

4 - 7 「見沼田んぼにおける交流の活性化」について

【目的】

緑区のシンボルである見沼田んぼを生かして
区民、生産者（農業者）、来訪者の交流を深める

【提言】

- 見沼田んぼでの交流活性化を図るために、区民会議OBが集い、活動していこう
- 交流拠点の整備に向けて、みんなで知恵・力を出し合おう
- 見沼田んぼの成り立ちや現状を伝えることで、区民、生産者、来訪者の相互の理解と交流を深めよう

<行政に期待すること>

- ・ 既存及び計画中の公共施設を活用した（仮称）ビジターセンターの整備。
- ・ 区内の公共施設の地域活動への一層の開放を図るため、開放時間や開放ルールについて区民参加により検討する。
- ・ 区民会議経験者のネットワーク形成を支援する。

<区民会議に期待すること>

- ・ 見沼田んぼをテーマとして、区民、生産者などが相互の理解と交流を深めるためのきっかけづくりを進める。

<区民に期待すること>

- ・ 見沼田んぼにおける交流活性化のために、知恵を出す。
- ・ 見沼田んぼの成り立ちや現状への理解を深める。

【現状】

- 区民同士のコミュニケーションが十分ではない。
 - ✓ 高齢者と子どもの交流の場があまりありません。
 - ✓ 子どもや他人に声を掛けられない大人がたくさんいます。
- 見沼田んぼは、緑区の宝であるが、十分に理解、活用されていない。
 - ✓ 「駅からハイキング」などでは、多くの人々が来訪しています。
 - ✓ 散歩をしている区民も少なくありません。
 - ✓ 見沼田んぼは、人々の交流区間として適しています。
 - ✓ しかし、産直などの拠点がありません。
 - ✓ トイレの問題など、高齢者にも優しくありません。
 - ✓ もっと人を呼び込んで地域の活性化につなげたいと思います。
 - ✓ 区民でも、区内の良いところを知らない人がたくさんいます。
 - ✓ 緑地空間として認識されているが、本来、生産の場であり、生産活動により保全されてきた地域であることが忘れられています。

【課題】

- 見沼田んぼを活用して交流を活性化するためには、ハードもソフトも不足しています。
- 多くの人が見沼田んぼに訪れるようにする仕掛けが必要です。
- そのためには受け入れ体制をつくらなければいけません。
- 歴史や成り立ちを正しく伝えていく仕組みも必要です。
- 土地所有者も含めて、関係者が力を合わせていかないと、行政だけではこれらのことは進みません。